



東京応化工業株式会社「統合レポート2026」

第三者検証 意見書

2026年7月 15 日

東京応化工業株式会社

代表取締役 取締役社長 種市 順昭 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

石井 浩

■ 検証の目的

レスポンシブル・ケア報告書検証は、東京応化工業株式会社が作成した「統合レポート2026」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は財務情報を除くものとします。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動およびCSR活動の評価
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・TOK技術革新センターにおいて、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性、および数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、ならびにそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・郡山工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性および数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者および報告書作成責任者へ質問すること、資料提示・説明を受けること、ならびに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値および数値以外の記載情報の調査については、サンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社および郡山工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・データ集計システムの活用と、担当者間の相互確認で、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さに関し、若干の指摘をしましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンシブル・ケア(RC)活動およびCSR活動の評価について
 - ・2025 年 1 月に環境・労働安全衛生の統括部署(EHS 部)内に労働安全施策を統括する部門である「労働安全マネジメント課」を発足させ、各拠点間とのつながりを強化し、現場主導・現場自律の運営を確実に促進し労働災害の低減に寄与していることを確認しました。この結果、2023 年 4 月に発令した「労働安全非常事態宣言」を解除したことを評価します。今後は、労働安全のみならず保安防災の面でも活動を推進していくことを期待します。
 - ・最新拠点である阿蘇くまもとサイト設備および郡山工場で建設中の新規製造棟では、薬液への直接接触機会の低減や手作業負荷の軽減を図るなど労働災害の発生を低減する「人にやさしいスマートファクトリー化」を進めていることを評価します。
 - ・カーボンニュートラルに向けた CO₂排出量削減に向けて、ガスボイラーからヒートポンプユニットによる温水加温への転換など確実に取り組みを進めていることを評価します。
 - ・郡山工場では環境負荷低減に向けて、純水セントラル供給システムを新規導入し、工業用水、排水量ならびにエネルギーの低減を図っていることを確認しました。環境負荷低減に向け努力していることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・長期的かつ持続的な価値創造力を生み出していくために企業行動の原動力となる「人的資本」を主要テーマに報告書が構成されています。
 - ・従来型の目次に加え、「長期投資家の皆様との対話ポイント」という投資家向け目線の目次を新企画として掲載するなど閲覧性・利便性が向上しています。

以上